

## 世界の異常天候とその影響評価 (22)

## (Climate Impact Assessment, November, December, 1985)

## 1. 合衆国・カナダ一寒波

11月と12月初めに、合衆国の中部と西部及びカナダ西部は記録的な寒波に見舞われた。このため、学校は休校となり、主要道路が不通となって交通が滞り、航空便の運航が遅れた。報道によれば、11月24日から12月1日までの厳しい天候のため、40人以上が死亡した。この寒波は11月としては最悪の寒波である。モンタナ、ノースダコタ、ミネソタの各州では、最低気温は $-34^{\circ}\text{C}$ にまで低下した。(これとは対照的に、合衆国の南東部では記録的な暖かさであった。)

## 2. 合衆国の大西洋岸中部一大雨、洪水

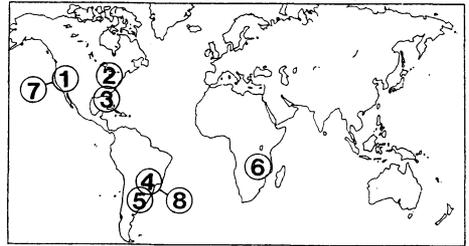
ウェストバージニア、バージニア、ペンシルベニア、メリーランドでは、11月3日～5日に大雨が降って洪水が発生し、43人が死亡して、9億ドル以上の被害が生じた。これらの地域では50～200mmの雨が降り、250mmの雨が降った地域もあった。この洪水は、10月31日にルイジアナとアラバマを襲ったハリケーン Juan がメキシコ湾から北方に運んだ水蒸気の影響を受けている。Juan の影響で12人が死亡し、15億ドルの被害が生じた。

## 3. フロリダとキューバ一ハリケーン

ハリケーン Kate が11月19日にキューバを襲い、10人が死亡しサトウキビに被害が生じたと伝えられている。このハリケーンは11月21日には160km/時(約44m/秒)の強風を伴ってフロリダ州北西部を襲った。Kate は、今シーズン、メキシコ湾岸を襲った5番目のハリケーンであり、フロリダ州を襲ったハリケーンとしては、1925年以来、年内の襲来期日が最も遅かったハリケーンである。

## 4. ブラジル一干ばつ

ブラジルでは、サンパウロ州を中心に6月から10月まで少雨が続き、コーヒーとオレンジに被害が出ていたが、11月に入って救いの雨が降った。少雨の続いた期間の降水量は平年の25%～50%であった。現時点では、農作物の被害の評価には大きな幅があ



る。コーヒーの受けた干害は少なくとも過去24年間では最悪のものである。パラナ州とリオグランデドスル州の一部では、10月と11月が干天であったので、大豆の植えつけのための水分が制限されている。

## 5. アルゼンチン一大雨、洪水

ブエノスアイレス地域では、10月と11月に降った大雨のため、大規模な洪水が発生した。500万ヘクタールの土地が冠水し、5万人以上の人々が避難した。農作物の被害の程度は現在のところ不明である。輸出への影響はかなり大きなものとなる。

## 6. 南アフリカ一干天

南アフリカの西部の‘メイズ・トライアングル’(トウモロコシ三角地帯)では11月の高温干天のため、植えつけたばかりのトウモロコシが被害を受けた。‘メイズ・トライアングル’は、アフリカ南部における重要な食糧生産地域である。

## 7. 合衆国一低温

合衆国は、11月に続いて12月にも厳しい低温に見舞われた。寒気の内容は11月の場合よりもかなり東に位置している。この低温に伴って、エネルギー需要は平年よりも14%増加した。少なくとも20の観測所で月平均気温が30年平均値よりも $11^{\circ}\text{C}$ も低かった。ミシシッピ河上流の渓谷及び山間の平原からロッキー山脈中央部に至る地域では、このような低温が発生する確率は100回に1回である。風による冷却効果のため、合衆国の北部中央では気温は $-34^{\circ}\text{C}$ にまで低下した。この厳しい天候のため、家を持た(以下80頁へ続く)

## 第23期第14回常任理事会議事録

日時 昭和60年12月20日(金) 13:30~17:00  
 場所 気象庁観測部会議室  
 出席者 山元, 松本, 花房, 田宮, 土屋, 竹内, 吉野,  
 河村, 能登, 杉村, 春日

### 議題

#### 審議事項

1. 昭和61年度予算(案)について
  - (1) 昭和61年度予算(案)説明資料として第2次案が示された。
2. 評議員会の議題等について
 

第23期第2回評議員会の日程が1月24日(金)18時からに決定した。

議題は第1回に準ずる。
3. 和達清夫名誉会員の文化勲章受章に関連して
  - (1) 和達清夫名誉会員文化勲章受章の祝賀会を1月24日(金)18時45分から開催することが再度確認された。
  - (2) 受章記事を天気に掲載することとなった。

記事原稿執筆者の人選並びに依頼は松本理事が担当する。
4. 理事長等の選出方法について

(62頁より続く)

ない数百人の人々が救難設備に避難したが、低温によって死亡した人もいた。水道管の破裂等の資産の被害も生じた。

#### 8. ブラジル・パラグアイ干ばつ

ブラジルでは、パラナ州、サンタカタリーナ州、リオグランデドスル州等の南部の州で干天が続いており、干ばつが一層ひどくなっている。農場地帯の大半では、12月の降水量は平年の30~40%にしか達せず、10月に干ばつが始まって以来、この水準を上回ったことはない。農業被害の評価にはかなりの幅があるが、大被害であることについては疑いの余地

定款どおり実施することが確認された。

5. 甲辞内規について
 

内規に甲辞に関する規定が無いことの解釈について検討され、依頼に応じて行うことが確認された。

紙碑のスペースに関して、天気編集委員長から1件あたり1頁(写真がある場合はこれを含む)とする旨提案があり承認された。
6. 国際学术交流基金を増やす為の寄付について
 

1口千円の寄付を一般会員から募集する。6月と12月の年2回位寄付募集について「天気」に掲載し、口座を開いて振り込んでもらう。

文案については国際学术交流委員会で作成し、常任理事会で検討後、5月の理事会で承認を得てから実施する。
7. 本学会出版物の著作権使用依頼の取り扱いについて
 

従来、各編集委員会が処理する慣例となっていたが、天気編集委員会より異議が出されたので次回検討する。
8. 会員の新規加入の承認について
 

個人会員高谷喜一ほか16名の新規加入が承認された。

はない。いくつかの情報によると、基本的な農業被害(小麦, 豆類, 酪農を含む)は3億ドルを越えており、コーヒーの被害は15億ドルにも達するという。

隣接するパラグアイ東部でも、同様の干天が拡がっており、10月、11月と続いた乾燥状態がさらに強まっている。12月の降水量は平均して25mm(平年の15~20%)に過ぎない。大豆の重大な被害が発生しそうな気配であることが注目される。(1985年の生産量は60万トンであった。)

注: 上記各項目の番号は図中の番号に対応している。(気候変動対策室 真野裕三)

編集後記: 12月号編集後記に対しての反応がありました。筑波の気象人健在とのこと、頼もしい限りです。今後も皆様の声をお待ちしています。(ひろば)

事務的なことをお願いいたします。講演会や月例会のお知らせ類は、月末までに届きますと翌月号に掲載することが可能です(12月号は例外)。それ以外の、編集委員が目を通す必要のある埋草原稿(会員の広場、本だな等)

は月末では間に合いませんので若干の時間的余裕を。

最近、ワープロによる投稿が増えましたが、字が読み易く、ゲラは誤植が少なく仕上がりが、大歓迎です。しかし、1枚に45行も詰め込んだ原稿も現れ、これでは赤を入れることができません。ワープロによる投稿も、20字×20行の原稿用紙に準じ、字間、行間のスペースを充分に空けて下さい。(書記)